

ロボット草刈機でカブリダニ類を守る！ りんご園の高刈管理方法

【概要】

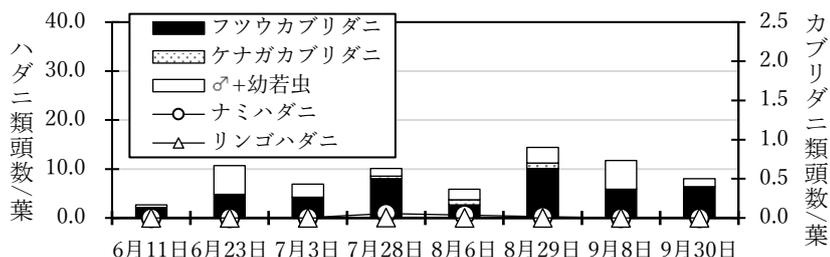
本県のりんご園では、下草の高刈管理と選択性殺虫剤の使用により、天敵であるカブリダニ類を守り、害虫のハダニ類の発生を抑える方法が普及しています。近年、省力技術として注目されるロボット草刈機による下草管理が、カブリダニ類とハダニ類に与える影響を検証しました。



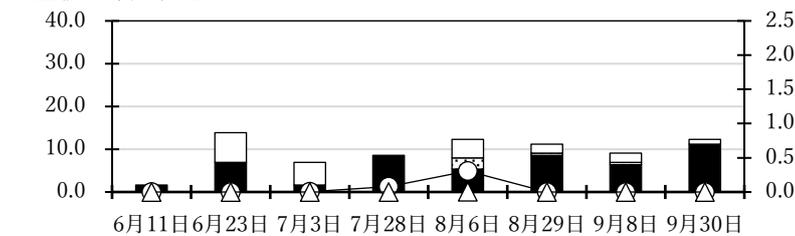
- 1 ロボット草刈機による高刈管理は、**2～3週間程度**の非稼働期間を設けて**草丈が20cm程度まで伸びる期間を確保**することで、カブリダニ類の密度が保たれ、ハダニ類の発生が抑えられます。
- 2 留意事項
 - (1) ロボット草刈機は和同産業(株)製の「KRONOS MR-300」を用いており、樹幹の周囲まで刈り取ることができます。
 - (2) ロボット草刈機を常時稼働させ、草丈が低い状態が続くと、カブリダニ類の発生が減少し、ハダニ類の増加につながる可能性があります。

【試験データ等】

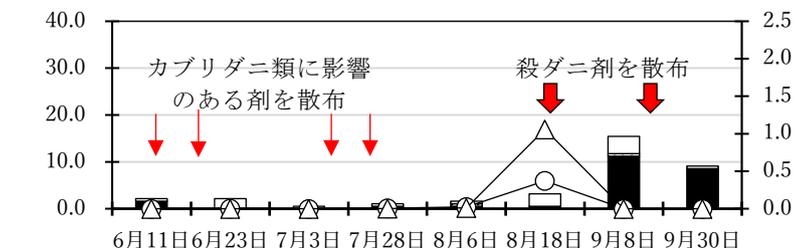
①ロボット草刈機高刈 (2区画を2～3週間間隔で交互に稼働) + 選択性殺虫剤中心



②乗用モア高刈 (月1回程度) + 選択性殺虫剤中心



③現地慣行：乗用モア慣行 (月1回程度) + 慣行防除



※②③は、樹幹の周囲に除草剤を散布した(年3回)。

図 下草管理による樹上のハダニ類・カブリダニ類の発生 (R7)

【令和7年度成果】土着天敵の保護を目的としたりんご園の下草高刈管理におけるロボット草刈機の適用性及び樹冠下への除草剤使用について (R7-指-14)